

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の江東区の状況について【小学校・義務教育学校（前期課程）】

令和4年12月5日
指導室

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校・義務教育学校
第6学年児童
(3,812人実施)

3 調査方法・内容

- (1)児童に対する調査
 - ①教科に関する調査
(国語、算数、理科)
主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。
 - ②質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (2)学校質問紙調査
学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

令和4年4月19日(火)

5 教科に関する調査（国語、算数、理科）の結果の概要

＜小学校・義務教育学校（前期課程）＞

国語・算数・理科

太字ゴシック (網掛け) : 全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック : 都のみ上回ったもの

・令和2年度 (新型コロナウイルス感染症の影響により、実施せず。)

・令和3年度

	国語		算数		指標
	正答率	計算値	正答率	計算値	
江東区	72	105.9	77	104.1	105
東京都	68	100	74	100	
全国	64	95.1	70.2	94.9	

・令和4年度

	国語		算数		理科		指標
	正答率	計算値	正答率	計算値	正答率	計算値	
江東区	73	105.8	71	106.0	67	103.1	106
東京都	69	100	67	100	65	100	
全国	65.6	95.1	63.2	94.3	63.3	97.4	

各教科の調査結果について

【国語】

○「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」問題の正答率は、国84.7%、都87.1%、に対し、本区89.8%と高い正答率だった。

●「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題」の正答率は、国37.7%、都39.0%、本区42.9%と全体的に低かった。

【算数】

○「長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く」問題の正答率は、国83.2%、都85.7%、に対し、本区88.2%と高い正答率だった。

●「飲み物の量が変わっても飲み物の濃さは変わらないことを理解しているか」の正答率は、国21.4%、都29.1%、本区32.9%と全体的に低かった。

【理科】

○「実験の結果を基に、自分の考えをもつことができる」問題の正答率は、国62.8%、都68.5%、に対し、本区71.5%と高い正答率だった。

●「光の性質を基に、日光の反射について問う」問題の正答率は、国27.8%、都26.8%、本区25.3%と全体的に低かった。

6 江東区長期計画の指標との関連 ()内は令和3年度の数値

指標名	目標値 令和6年度	令和4年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	107	106 (105)	100	94.7 (95)
自分にはよいところがあると思う児童の割合	87%	79.7% (75.5%)	80.1% (77.2%)	79.3% (76.9%)
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	96%	94.2% (94.3%)	94.2% (94.6%)	95.1% (95.5%)

7 児童質問紙調査の結果の概要

○ 学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している児童の割合は、国85.4%、都84.9%、本区83.5% (令和3年度比 国+2ポイント、都+2.2ポイント、本区+2.9ポイント) であり、前回調査から肯定的な回答が増加している。

○ 自己肯定感について

「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、国79.3%、都80.1%、本区は79.7% (令和3年度比 国+2.4ポイント、都+2.9ポイント、本区+4.2ポイント) であり、前回調査と比べて肯定的な回答が増加している。

○ いじめについて

「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合は、国96.8%、都96.0%、本区は95.7% (令和3年度比 国+0ポイント、都+0ポイント、本区+0.3ポイント) であり、前回調査から肯定的な回答が増加している。

○ ICT機器を活用した学習時間について

「1日当たりどれくらいの時間、ICT機器を勉強のために使っているか」で30分以上と答えた児童の割合は、国43.8%、都51.1%、本区は56.2%であり、また、「学校で、学級の友達と意見を交換する場面でICT機器をどの程度使っているか」で週1回以上と答えた児童の割合は、国49.4%、都56.2%、本区61.3%であり、国や都の数字を上回った。

8 こうとう学びスタンダードとの関連 ()内は令和3年度との差

○ 家庭学習について①【月～金曜日の間に1日60分以上勉強をする児童の割合】

国59.4% (-3.1ポイント)、都65.3% (-0.7ポイント)、本区71.1% (-3.4ポイント)

○ 家庭学習について②【家で、自分で計画を立てて勉強している児童の割合】

国71.1% (-2.9ポイント)、都72.6% (-2.6ポイント)、本区73.9% (-5.5ポイント)

○ 読書への親しみについて【月～金曜日の間に1日30分以上読書している児童の割合】

国36.4% (-1.0ポイント)、都41.4% (+0ポイント)、本区：43.3% (-1.4ポイント)

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年生徒
義務教育学校第9学年生徒
(2,475人実施)

3 調査方法・内容

- (1) 生徒に対する調査
- ① 教科に関する調査
 - ・国語、数学、理科
 - 主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。
 - ② 質問紙調査
 - 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (2) 学校質問紙調査
- 学校における指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況に関する調査

4 調査実施日

令和4年4月19日(火)

5 教科に関する調査（国語、数学、理科、英語）の結果の概要

＜中学校・義務教育学校（後期課程）＞

国語・数学・理科・英語

太字ゴシック（網掛け）：全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック：全国または都のみ上回ったもの

・令和2年度（新型コロナウイルス感染症の影響により、実施せず。）

・令和3年度

	国語		数学		指標
	正答率	計算値	正答率	計算値	
江東区	68	101.5	62	103.3	102.4
東京都	67	100	60	100	
全国	64.6	96.4	57.2	95.3	

・令和4年度

	国語		数学		理科		指標
	正答率	計算値	正答率	計算値	正答率	計算値	
江東区	71	101.4	54	100.0	50	98.0	100.7
東京都	70	100	54	100	51	100	
全国	69.0	98.6	51.4	95.2	49.3	96.7	

各教科の調査結果について

【国語】

○「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題の正答率は、国 51.8%、都 54.1%、区 54.9%と国、都より高い正答率だった。

●「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題の正答率は、国 46.5%、都 43.8%、区 43.8%と全体的に低かった。

【数学】

○「多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているか」の問題の正答率は、国 83.3%、都 85.4%、区 85.9%と高い正答率だった。

●「日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題の正答率は、国 38.4%、都 41.8%、区 41.3%と全体的に低かった。

【理科】

○「変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうか」の問題の正答率は、国 78.5%、都 78.2%、区 78.8%と高い正答率だった。

●「考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善する」問題の正答率は、国 43.3%、都 44.3%、区 44.2%と全体的に低かった。

6 江東区長期計画の指標との関連（ ）内は令和3年度の数値

指標名	目標値 令和6年度	令和4年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	105	100.7 (102.4)	100	96.8 (95.9)
自分にはよいところがあると思う生徒の割合	80%	76.4% (71.9%)	78.5% (76.3%)	78.5% (76.2%)
人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合	93%	92.6% (92.7%)	93.5% (93.4%)	95% (95%)

7 生徒質問紙調査の結果の概要

○ 学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している生徒の割合は、国 82.9%、都 82.4%、本区 81.0%（令和3年度比 国+1.8ポイント、都+1.6ポイント、本区+2.2ポイント）であり、前回調査から肯定的な回答が増加している。

○ 自己肯定感について

「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は、国 78.5%、都 78.5%、本区は 76.4%（令和3年度比 国+2.3ポイント、都+2.2ポイント、本区+4.5ポイント）であり、前回調査と比べて肯定的な回答が増加している。

○ いじめについて

「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している生徒の割合は、国 96.4%、都 95.2%、本区は 95.2%（令和3年度比 国+0.5ポイント、都+0.7ポイント、本区+1.1ポイント）であり、前回調査から肯定的な回答が増加している。

○ ICT機器を活用した学習時間について

「1日当たりどれくらいの時間、ICT機器を勉強のために使っているか」で30分以上と答えた生徒の割合は、国 40.8%、都 47.7%、本区は 50.9%であり、また、「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面でICT機器をどの程度使っているか」で週1回以上と答えた生徒の割合は、国 43.5%、都 43.9%、本区 53.8%であり、国や都の数字を上回った。

8 こうとう学びスタンダードとの関連（ ）内は令和3年度との差

○ 家庭学習について①【月～金曜日の間に1日60分以上勉強をする生徒の割合】

国 69.5% (-6.0ポイント)、都 73.8% (-4.9ポイント)、本区 76.4% (-6.0ポイント)

○ 家庭学習について②【家で、自分で計画を立てて勉強している生徒の割合】

国 58.5% (-5.0ポイント)、都 59.9% (-2.7ポイント)、本区 58.5% (-3.6ポイント)

○ 読書への親しみについて【月～金曜日の間に1日30分以上読書している生徒の割合】

国 27.3% (-1.6ポイント)、都 28.6% (-0.5ポイント)、本区 27.4% (-1.4ポイント)